

Cafe Series

震災を忘れず、忘れられないために

第2回地震学者に聞く
期待と予測
反省と次をめぐって

2012.1.12 thu 18:30 - 20:30

【会場】 ティーラウンジ 「ルフラン」

【演者】 額糺一起 (東京大学地震研究所教授)

【ファシリテーター】 長神風二 (東北大学脳科学グローバル COE 特任准教授)

多くの人の命を、生活を奪った大震災から、間もなく9カ月が経とうとしています。多くの言葉が語られてきました。未曾有の、そして想定外の、と。広がる原子力発電所事故の影響の中、地震そして津波災害については、急速に忘れ去られようとしている思いも禁じ得ません。原子力発電所事故と違い、地震・津波は純然たる自然災害であり、被害について、不当さを責める相手もいません。運が悪かった、仕方がなかった、と片づけられてしまうような雰囲気も感じています。果たして本当にそうだったのでしょうか。

未曾有の、と人は言いますが、いまだかつてない、という原義通りだったのでしょうか。

想定外、と人は言いますが、本当に、想定は不可能だったのでしょうか。

科学は知を集めて地震・津波災害の回避・軽減にあたってきた、はずでした。それらの努力が報われなかったのか、不十分だったのか、あるいは的外れだったのか、想定を上回る規模と言われれば、その想定とは何だったのか、という思いも起ります。

一方で、津波が到達していない場所では、物が散乱し倒れている現場を後から見れば、これほどの物的被害が出ているにも関わらず、人的被害は浅く済んだという声も多く聞きました。備えあったればこそ、という声も多く聞きました。

私たちは、地震を対象とする科学に、何を期待してきて何を待って、何を期待し得ずして、今後どう期待していくべきなのでしょう。東北で地震を経験した立場として、日本の他の地域に伝えるべきこともあるのではないのでしょうか。東京で地震研究に携わる地震学者をお招きして、共に考えるカフェを開催します。

2012.1.12 thu 18:30 - 20:30

[会場] ティーラウンジ 「ルフラン」

<http://www.refrain-refrain.com/>

[参加費] 500円

*参加費はケーキセットの代金です。当日、受付にてお支払いください。

[定員] 30名

[申込方法] Web上で事前登録をお願いします。

<http://bit.ly/rCjcQp>

[演者] 縞織一紀 (東京大学地震研究所教授)

[演者略歴] 縞織一紀 (こうけつ・かずき) 1956年、神奈川県生まれ。東京大学地震研究所教授。東京大学大学院理学系研究科修了。理学博士。専門は応用地震学。近著に、大木聖子氏との共著「超巨大地震に迫る日本列島で何が起きているのか」(2011年、NHK出版新書)など。

